

# 報恩講

## おてら

### 十一月十六日(土)

午前十一時より

正午 おとき・法話

おときも椅子席になっております



浄土真宗のご開祖親鸞聖人の御祥月命日に

「ご宗祖のご苦労を偲び感謝し、そのみ教えを味あわせていただき、明日の私の生きる糧とさせていただきます。」

ぜひ一度、ご参加下さい。

常例十六日講  
毎月十六日午後一時より  
お経練習・法話会  
写経会  
毎月第二・四金曜日  
午後一時より

## 幸せな人

住職 蒲原 靈 英

先日、野村護持会前会長の本山納骨の為に京都へ行って来ました。本山納骨とは、東山五条にある大谷本廟に分骨を納骨することです。せつかくの本山納骨のご縁なので、九十二歳の祖母を、実家である西宮市名塩の教行寺(蓮如上人開基、ご上人八男蓮芸が初代住職)に里帰りさせ、近隣に住む二人の妹達に会わせてやろうと、秋彼岸の御中日に誘ってみると、もう最後だからとついて来ることになりました。

早朝に車で新潟を出発し、昼前に名塩に到着。実家の阿弥陀様に暇乞いをして、三姉妹でたくさんおしゃべり堪能。近くの有馬温泉に一泊。京都では、本山納骨後と翌朝のお晨朝(お朝事。朝のお勤め)の二回ご本山にお参りし、ご本山の阿弥陀様にも暇乞い。祖母にとつては、まさに暇乞いの旅でした。妹達とは、「またすぐお浄土で会えるさかい、ほななあ」と笑顔でさよなら。そして、帰りの車中、幾度となく、「何にも思い残すことは無い。私は何の取り柄も無いのに、本当に良い人生を送らせてもらった。幸せな一生だった。本当にありがとうございました。」

私にも、本当に祖母はとて幸せな人だと思えます。もちろん、いろいろな点で恵まれていたのかもしれませんが、それよりも何よりも、いつも感謝しながら生きていたからです。九十年以上も生きていれば、良いこと楽しいことばかりではなく、悪いこと辛いこと悲しいこともたくさんあったはず。しかし、少なくとも私が物心付いてからこの方、祖母の口を聞いて出てくるのは、感謝の言葉ばかりでした。

文句ばかり言って過ごすも一日、楽しく笑って「ありがたう」と言っただけの一日。どうせ過ごすなら、気持ちよく過ごしたいものです。いくら後悔しても、不平不満や愚痴をこぼしても、はたまた加持祈禱をしても、時間の針を戻して、起こってしまった事を無かったことにすることはできません。であるならば、その事をどう捉えるか。これも私をお育てくださる為、私をお救いくださる為の「阿弥陀様のおはからい」、すなわち私への励ましであると頂いて、これからの人生に活かしてゆこうと考えるとどうでしょう。すると、文句どころか、感謝の言葉が出てくるはず。これが、南無阿弥陀仏のお念仏です。お念仏の人生を送れる人は、幸せな人です。

合掌



# 総永代経法要



9月20日から26日迄の秋彼岸の21日午後7時から、この一年間に永代経をご進納くださった方々をご招待し、浄光寺総永代経法要が営まれました。

献灯・献花・献供物の後に読経が始まり、参拝者の方々が順次ご焼香。御文章拝読の後、住職よりご法話があり、本山御用達のお供物（亀屋陸奥「松風」と記念品が下付されました。

永代経は、永代にわたり仏を供養し、み教えが伝わってゆくようにと、できる人ができる時にできる事をさせていただく、相互扶助・お互い様の精神をもつて受け継がれて来ましたが、今日では、ご本山で災害復興支援などに役立たせていただいています。



大谷本廟・総門

## 本山納骨

### 大谷本廟への分骨納骨のご案内

大谷本廟は、東山五条にある親鸞聖人のご廟所（墓所）であり、本願寺と教団発祥の地でもあります。全国の門信徒の方々の納骨所として、墓地、合葬墓と第一・第二無量寿堂（ロッカー式納骨堂）が整備されています。

無量寿堂に浄光寺のロッカー式納骨所があり、ご聖人のご遺徳を慕い、そのお側に在りたいとの願いから、前々住職・坊守始め、沢山のお檀家の方々の分骨が納骨されています。新潟からのご参拝はもちろん、主に関西・西日本方面のご親類の方々は、新潟のお墓になかなかお参りできない代わりに、こちらに頻繁にお参りされています。また、特に近年は、もし万が一新潟が災害に見舞われても、京都の分骨だけはお護りしたいという、保険の意味も重要視されています。

本山納骨をお勧め致します。



### 月忌納め法要

（おみがき）

十二月十六日

午後一時より

仏様へ先祖様に一年の感謝を  
申し上げます

## 秋の日帰りバス旅行



椎谷護持会副会長からバスをお借りして、10月10日、恒例の秋の日帰りバス旅行へ行つて来ました。豪農の館椿寿荘を見学後、湯田上温泉にてお料理と温泉を楽しみ、最後は新鮮なぶどうのお土産を携えて。秋晴れの良い一日を過ごさせていただきました。

次回のご参加お待ちしております。

### 除夜会法要

十二月三十一日

午後十一時半より

除夜の鐘を  
ついでみませんか  
豚汁の振る舞いがあります

